



# きんひが通信

令和元年10月30日  
〈第28号〉  
校長 平塚智康

## 赤ちゃんふれあい体験 ～5・6年生～

10月21日（月）、5・6年生が「赤ちゃんふれあい体験」を行いました。乳幼児とのふれあいや、お母さんや助産師さんからお話を聞く活動を通して、「命の尊さ」や「家族の大切さ」に気づき、「自分も人も大切にできるきんひがの子」に成長して行ってほしいという願いから、この体験学習を実施しました。



赤ちゃんを抱っこして、男子も女子も、みんなすてきな笑顔ですね。

ふれあい体験教室に来てくれたお母さんの中に、わたしが20年ほど前、錦城小学校で6年生を担当していたときに受け持った教え子がありました。あの時、かわいらしい6年生やったあの子が、3人の子どもを育てていると聞いて、立派なお母さんになったなあとても感動しました。

## 「とてもかわいかった赤ちゃん」

10月21日に、赤ちゃんふれあい教室がありました。まず、助産師さんの吉田先生に赤ちゃんのことについてくわしく教えてもらいました。たとえば、おむつは1日に十回以上かえているということが分かりました。ほかにも、1パックにおむつが90まい入っているけど、1週間で終わるなんてこともとてもびっくりしました。

体育館に行くと、もうお母さんに手をつないでもらって歩いている子もいたし、ハイハイしている子もいました。名前のゆらいを聞いたら、この赤ちゃんは、なんていい名前をつけてもらったんだと思ひ、わたしがうれしく思いました。赤ちゃんは0さいの女の子と2さいの男の子がいました。2人ともとってもかわいくって、とってもいやされました。わたしもこんな小さいときがあったんだなと思ひました。こんなに大きく親が育ててくれたんだと、赤ちゃんふれあい教室をしていて思ひました。

わたしは、0さい2か月のいとこの男の子がいて、いとこの家に行くと、とってもその赤ちゃんにいやされます。その赤ちゃんはずっと泣いているけど、泣かないときは、笑ったり、ねたりしています。わたしは、あたらしいいとこがうまれてうれしいなと思ひています。

さいごに女の子をだっこさせてもらったけど、だっこしたしゅんかんにとっても心がほかっとしてあたたかくなりました。その女の子の赤ちゃんが、わたしの顔を見て笑ってくれたので、とってもうれしかったです。その二人はりにゅう食をぜんぜん食べなかつたけど、わたしは小さいころいっぱい食べていたとお母さんにおしえてもらったのを思ひ出しました。やっぱり、人それぞれあるんだなとわたしは思ひました。

わたしが、もし赤ちゃんをうんだら、とてもやさしい子になってほしいなと、今日の赤ちゃんふれあい教室を受けていて思ひました。本当に、この赤ちゃんふれあい教室があつてよかったなと思ひます。そして、今日来ていただいたお母さんがたに、わたしはとてもかんしゃしています。

## 「赤ちゃんとおふれあつたよ」

今日、ぼくは赤ちゃんふれあい体験教室で、生後1年ぐらゐの赤ちゃんとお母さん、助産師さんに会いました。

まず、助産師さんのお話を聞きました。赤ちゃんは、生後3か月に寝返りができ、およそ1年ぐらゐになれば歩けるようになると初めて知りました。赤ちゃんは、生まれて最初に飲むのは、やっぱりお母さんのミルクだそうす。お母さんのミルクには、いっぱいいいものがつまっていると初めて知りました。

その次に、生後1か月の赤ちゃん二人に会いました。質問の時に、「赤ちゃんは、あなたにとってどんなそんざいすか」と聞いたら、2人のお母さんは「父と母にとっての大事な宝物」と答えていたのを聞いて、なんだかもすごくじーんとしました。この話を聞いて、やっぱり赤ちゃんがいて、もすごく笑顔になれるなと思ひました。



最初は照れくさそうにしていた5・6年生でしたが、赤ちゃんを抱っこすると、なぜだかみんなすてきな笑顔になっていました。

抱っこしたしゅんかん「心がほかっとしてあたたかくなつた」のすね。「赤ちゃんは父母にとって大事な宝物」というお母さんの話を聞いて、じーんとしたのすね。

ふれあい体験に参加した一人ひとりが、それぞれのすてきな感性で、命の尊さや家族の温かさを感じるのすことができましたようす。

あなたたちを笑顔にしてくれた赤ちゃんたちですが、あなたたち自身も、この赤ちゃんたちと同じように、まわりのたくさんの人たちを笑顔にし、元氣を与えているのすよ。仕事でつらいことがあつても、家に帰つて、かわいい子どもの笑顔を見るだけで、疲れもふきとびます。そして、また明日ががんばろうと思ひます。

あなたたち一人ひとりの存在も、お父さんやお母さん、家族にとって大事な大事な宝物なのすよ。だからこそ、自分のことを大切にしないといけなし、まわりの人のことも大切にしないといけなしのすね。